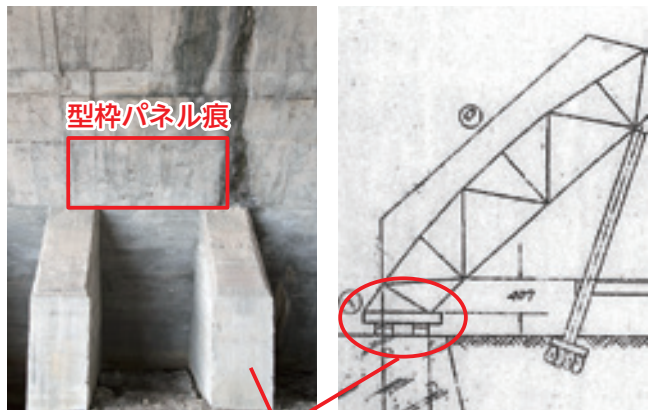




4号掩体前部アーチの
コンクリート基礎台

掩体設計図



4号掩体後部アーチの
コンクリート基礎台

材料名	単位	数量
コンクリート	m ³	12.5
鉄筋	kg	1,200
砂	m ³	10.0
石	m ³	5.0
土	m ³	20.0
木材	m ³	1.0
その他		
合計		

掩体材料表

当時を経験した方の証言もさまざま残っていますが、発掘調査によって分かったこともあります。

4号掩体前部アーチの裾には等間隔に並んだ9基の構造物が残されており、調査によってこれらは型枠を組むための土台となるコンクリート基礎台であることが分かりました。掩体の表面には全体的に板の木目がついており、その詳細を観察すると複数枚の板を組み合わせた型枠パネルを基礎台と基礎台の間に並べてコンクリートを打設している様子が確認できます。

後部アーチの裾にも10mほどの深さに埋まっていたコンクリート基礎台が検出され、前部アーチ同様に基礎台を使用してアーチを作っていたことが分かりました。

大型掩体には設計図や材料表が残っており、4号掩体は設計図どおりに型枠工法で作られていたことも判明しました。材料表からは、戦況も悪化して物資も乏しくなっていたであろう時期に、軍は優先的にこれだけの物資を集めることができたことも読み取れます。

戦後80年が経過した今、当時の体験談が語られることも少なくなってきました。今現在残されている掩体も老朽化により雨漏りやひび割れが目立ってきています。4号掩体は発掘調査と同時に3D測量も行い、4号掩体を詳細に観察できるデータを作成しました。データとして4号掩体を保存できたことは大きな成果です。今後はこのデータを広く公開して保存や平和教材として役立てていきたいと考えています。

今を生きる自分たちができることは、ヒトやモノから戦争の悲惨さを学び、二度と繰り返さないよう後世に語り紡いでいくことではないでしょうか。



4号掩体3Dデータ

戦後
80年

ヒトとモノが語る戦争

南国市に残る戦争遺跡

80年前の1945年8月15日、日本は終戦を迎えました。ここ南国市にも戦時中の痕跡が多く残されています。中でも前浜地区に残る掩体群は、田園風景にたえずむその存在感がひととき目を引く戦争遺跡です。掩体とは戦時中に作られた飛行機の格納庫で、海軍航空隊基地の施設です。現在大小併せて7基が残されています。掩体を通して、戦争を経験した方の証言や発掘調査で判明したことから、当時の様子を知ることができます。

ヒト・モノが語る戦争

1941年〜44年にかけて今の高知大学物部キャンパスや高知高専あたりに海軍航空隊の基地が作られました。基地用の土地として三島村の約7割が強制買収され、村民は立ち退きを余儀なくされ三島村は消えてしまいました。この頃から米軍機がたびたび基地に襲撃するようになり攻撃が激しくなりました。掩体はこれらの攻撃から飛行機を守るために作られたのです。

掩体の建設場所は軍が独断で決めて、田畑の状況、水路、農道など地元への配慮や相談はなかったといえます。例えば7号掩体は、他の土地があったにもかかわらず軍の一存で

農道や水路を潰した上に建設され、地元住民が抗議や意見を言っても全く聞き入れられませんでした。

建設作業は、軍の技術監督者が図面を基に指揮を執り、中学生や地元の女性などを中心に進められました。コンクリートに使う砂利は物部川の河口で採取し、トロツコに積んで人力で掩体建設現場まで運んでいたそうです。当時の技術監督者の証言によると、掩体は複数を同時進行で建設し、朝7時から日没まで作業をする突貫工事を行っても1基出上がるのに2〜3カ月かかったといえます。掩体づくりも終盤になると鉄筋など物資が不足するようになり、竹筋を用いて作られたものもあったそうです。



農道と水路の上に立つ7号掩体

掩体年表

1941年1月	12月	1942年春	1943年8月	1944年3月	6月	7月頃	1945年3月19日	5月	8月15日	11月	2006年2月	2012年10月	2025年1月
海軍飛行場建設発表・開始。	太平洋戦争開始。	海軍飛行場用地買収・建設。	高知海軍航空隊開隊。士官60名、兵員3660名、白菊55機が配置される。	掩体・誘導路用地買収。掩体建設場所決めが行われる。	掩体製作技術監督者が呉から来高。	この頃から掩体用の鉄筋が届かなくなる。	日本の無条件降伏により終戦。高知海軍航空隊閉隊。	現存する掩体7基全てが前浜掩体群として南国市の指定文化財に登録される。	公園整備に伴い5号掩体試掘確認調査が行われる。	4号掩体試掘確認調査・3Dレーザー測量を行う。			

前浜掩体群の詳細はこちら

